２０１３年3月２２日

各 位

会 社 名 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
（コード番号８２６７　東証第一部）
問 合 せ 先　秘 書 室 責 任 者　　堤　唯見
（電話番号043-212-6042）

当社子会社（イオン九州株式会社、株式会社サンデー、株式会社コックス）の業績予想の修正等について

最近の業績の動向等を踏まえ、当社連結子会社であるイオン九州株式会社（ＪＡＳＤＡＱ：コード2653）と株式会社サンデー（ＪＡＳＤＡＱ：コード7450）が2012年4月5日に公表した2013年2月期（2012年2月21日～2013年2月28日）の通期業績予想と、株式会社コックス（ＪＡＳＤＡＱ：コード9876）が2012年12月25日に公表した2013年2月期（2012年2月21日～2013年2月28日）の通期業績予想を添付資料のとおりそれぞれ修正することとなりましたのでお知らせします。また、株式会社サンデー（ＪＡＳＤＡＱ：コード7450）は特別損失の計上並びに繰延税金資産の計上についても併せてお知らせいたします。

尚、本件による当社の連結業績予想の変更はありません。

以上

2013年3月22日

各　　位

会社名 イオン九州株式会社
代表者名 代表取締役社長 山口 聡一
（コード番号２６５３ ＪＡＳＤＡＱ）
問合せ先 取締役経営管理本部長 榊 隆之
（電話番号 092-441-0611）

2013年２月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2012年４月５日に公表しました2013年２月期（2012年２月21日～2013年２月28日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

１．2013年２月期 通期業績予想の修正 （2012年２月21日～2013年２月28日）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想（A）	259,000	3,500	3,230	1,300	69.19
今回修正（B）	252,000	2,600	2,800	660	34.03
増減額（B－A）	△7,000	△900	△430	△640	
増減率	△2.7%	△25.7%	△13.3%	△49.2%	
【ご参考】前年同期実績	249,145	3,037	3,030	712	37.96

２．修正理由

第３四半期累計期間までは、景気の先行き不透明感から個人消費が低調に推移し、既存店売上は伸び悩んだものの、荒利益率の改善や経費削減により、営業利益は計画通りに推移いたしました。

しかしながら、第４四半期に入り前期の冬物実需期における大型セールの反動や天候不順により、衣料品や住居余暇商品を中心に既存店売上が想定以上に伸び悩みました。

この結果、2013年２月期の業績につきましては、営業収益2,520億円、営業利益26億円、経常利益28億円の見込みです。当期純利益は、減損損失の計上により、６億60百万円となる見込みです。

＊上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　　上

2013年3月22日

各　位

会社名　　株 式 会 社　サ ン デ ー
代表者名　代表取締役社長　　川村 暢朗
（コード番号７４５０ JASDAQ）
問合せ先　取締役管理本部長 成澤 真一
（電話番号　0178-47-8511）

業績予想の修正及び特別損失の計上並びに繰延税金資産の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、当社は2012年４月５日に公表した2013年2月期(2012年2月21日～2013年２月28日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、特別損失の計上並びに繰延税金資産の計上についても併せてお知らせいたします。

記

１．業績予想の修正について

2013年2月期通期連結業績予想数値の修正（2012年2月21日～2013年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	51,100	1,830	1,770	910	84.58
今回発表予想(B)	47,064	1,204	1,183	973	90.48
増減額(B－A)	△ 4,036	△ 626	△ 587	63	
増減率（%）	△ 7.9	△ 34.2	△ 33.2	6.9	
（ご参考）前期実績(2012年2月期)	51,012	1,777	1,705	287	26.68

(注)決算期の変更(２月20日から２月末日)に伴い、2013年２月期は12か月８日の変則決算となります。

2013年2月期通期個別業績予想数値の修正（2012年2月21日～2013年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	40,400	1,800	1,760	900	83.65
今回発表予想(B)	38,005	1,303	1,331	616	57.30
増減額(B－A)	△ 2,395	△ 497	△ 429	△ 284	
増減率（%）	△ 5.9	△ 27.6	△ 24.4	△ 31.6	
（ご参考）前期実績(2012年2月期)	39,914	1,785	1,742	978	90.97

(注)決算期の変更(２月20日から２月末日)に伴い、2013年２月期は12か月８日の変則決算となります。

２．修正の理由

（1）連結

当連結会計年度においては、復興需要の下支えによる緩やかな景気持ち直しの動きが一部に見られるものの、業種を越えての競争激化、個人消費の鈍化など依然として厳しい状況下にありました。このような中、前事業年度における震災後の一時的な需要増や地デジ化関連需要の反動、および子会社店舗の業態変更並びにコンセ・灯油の売上除外の影響を見込み、アグリやホームセンターらしい自社開発商品の取り組みや積極的な販促等対策を講じて参りましたが、売上高は当初計画を下回る見込みであります。また経費削減に努めたものの、売上高減少の影響により、連結営業利益並びに連結経常利益はそれぞれ当初予想を下回る見込みであります。なお連結当期純利益は、法人税等調整額２億85百万円の計上により、９億73百万円と当初予想を上回り、連結後最高益を達成する見込みであります。

（2）個別

連結における売上高、営業利益、経常利益の修正理由に加え、特別損失に関係会社株式評価損５億43百万円を計上したことにより、当期純利益が当初予想を下回る見込みであります。よって個別においても前回の業績予想を修正いたします。

３．特別損失の計上について

関係会社株式評価損　　５億43百万円

当社が保有する連結子会社㈱ジョイの株式について減損処理を実施し、関係会社株式評価損を個別決算において特別損失として計上することとなりました。なお連結決算への影響はございません。

４．繰延税金資産の計上について

前期より業績が堅調に推移し、将来にわたり課税所得の発生が見込まれることから、税効果会計上の会社区分の見直しを行った結果、個別の法人税等調整額に２億85百万円計上いたしました。

（注）上記予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき算出しておりますので、実際の決算数値と異なる可能性があります。

以　上

平成 25 年 3 月 22 日

各　位

会 社 名　株式会社 コ ッ ク ス
代表者名　代表取締役社長　　吉竹　英典
（JASDAQ・コード番号：９８７６）
問合せ先　取締役経営管理部長　速水　英樹
（ＴＥＬ：０３－５８２１－６０７０）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）の通期業績予想について、平成 24 年 12 月 25 日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想　（A）	23,500	△810	△640	△970	△35.18
今回修正予想　（B）	23,400	△1,050	△870	△1,320	△47.89
増　減　額（B－A）	△100	△240	△230	△350	―
増　減　率　（%）	△0.4	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 24 年２月期）	24,576	△1,061	△890	△1,848	△67.09

２．平成 25 年２月期（平成 24 年２月 21 日～平成 25 年２月 28 日）個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想　（A）	23,300	△700	△530	△1,150	△41.71
今回修正予想　（B）	23,200	△920	△740	△1,480	△53.70
増　減　額（B－A）	△100	△220	△210	△330	―
増　減　率　（%）	△0.4	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 24 年２月期）	24,520	△999	△829	△1,783	△64.72

３．修正の理由

通期の業績は、売上高 234 億円、営業損失 10 億 50 百万円、経常損失８億 70 百万円、当期純損失 13 億 20 百万円と計画数値を下回る見込みとなりました。

当第４四半期においては、売上高と荒利益額確保に向けて、梅春物および春物商品を順次展開してまいりましたが、１月以降気温が低く推移したこともあり、当該商品の売上が計画と乖離しました。一方、当社最大の課題であった在庫問題に取り組み、在庫処分を積極的に進め、第３四半期末に 35 億５百万円あった在庫は、第４四半期末において 26 億 98 百万円まで削減しました。

その結果、売上高は計画比１億円のマイナスに留まりましたが、１月以降の売上の中心が秋冬物のセール商品となったため、第４四半期の荒利益率が 48.4%と計画より３．４ポイント悪化し、営業利益は計画比２億 40 百万円下回る見込みです。また、来期の閉店予定店舗等について減損損失を２億 34 百万円計上いたしました。

以　上